

2

手指外傷の 初期対応

大江隆史

NTT 東日本関東病院 手術部長

Point 1 手指外傷について、その部位を記載、報告できる。

Point 2 手指外傷の診察と検査の要点とその意味がわかる。

Point 3 指の麻酔ができる。

Point 4 手指の創の処置ができる。

Point 5 手指に多い外傷について、初期治療の概略を説明できる。

はじめに

人間は手を用いて作業するため、手の外傷や障害はその頻度が非常に高く、ERを訪れる患者も非常に多い。一方、手の診療の専門性は高く、基本領域である「整形外科」や「形成外科」の専門医を取得後のサブスペシャリティーとして「手外科」がある。ERで手の外傷に直面する医師になりたてのレジデントに必要なのは、ERの処置で済ませるべきか、整形外科などの専門家に相談すべきかを見極めであろう。ここでは整形外科などの専門家が手外科医に相談すべきかの知識は省き、現場で役に立つ最小限の知識を示す。医師教育で整形外科分野は現場での頻度の高さと裏腹にきわめて軽視されており、手外科の分野はなおさらである。現場でこんなに多い事例の対処法をどうして教えておいてくれなかったと嘆いても仕方がない。さあ学ぼう。

専門家に相談するにしても、症例についてある程度の確に報告できる必要がある。図1は手を構成する骨と関節、手における方向を表している。専門家としては「示指の基節部の掌側に挫創があり、自動運動をさせると伸展はできるが屈曲はできない」くらいは伝えてほしい。

1. 診察

手指の外傷は痛いものである。脳の感覚野における手の占める大きさを思い出してほしい。手指は血流が豊富なので、出血も多い。患者が痛がっていて、血まみれの手を前にすると、麻酔を打ったり、ガーゼで覆ったりしたくなるのは人情である。しかしあなたは医師である。その前に観察すべきことがある(表1)。

その中でも下記はとくに注意が必要である。

基節部に創があるなら、PIP関節・DIP関節は自動で屈曲、伸展できるか？

手ではその筋腹が前腕にあって長い腱で指の関節を動かしている屈筋腱や伸筋腱が皮膚のすぐ下を通る。腱の損傷の有無を見落としてはならない。ERで創の抜糸が済んだ頃には受傷2週を過ぎ、指が屈曲できないのに患者自身が

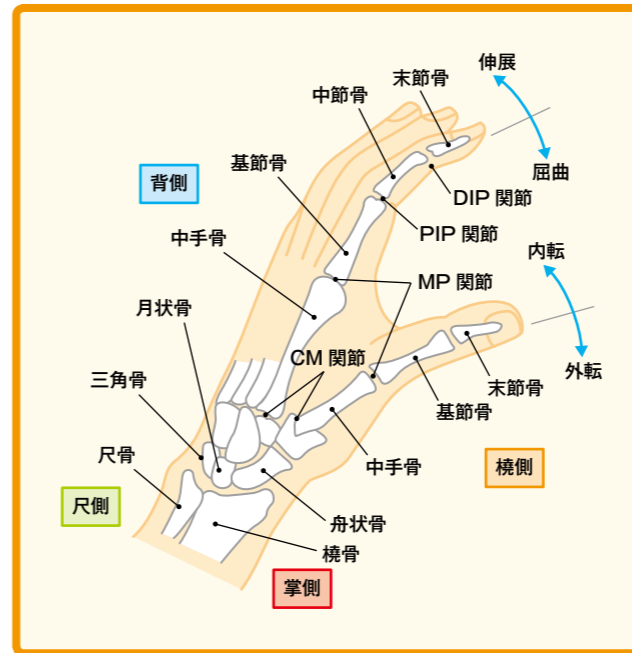


図1 指の構造と方向の呼び方

表1 処置前の診察の要点

変形、腫脹、圧痛の部位は？
創があれば、その位置と範囲は？
変形や創がある部位より遠位の自動運動は可能か？
創より遠位の痛覚は正常か？
指尖の血流は保たれているか？

気付いて整形外科を受診し**屈筋腱損傷**だと診断された場合、屈筋腱の修復術を行える3週間の限度が迫っている。整形外科医が屈筋腱縫合をすぐやってくれる手外科医を探すことがどんなに大変か、知ってほしい。

創より遠位の痛覚は正常か？

知覚とせず痛覚としたのにはわけがある。基節部で指神経の断裂があっても、末節部を触って、「触っているのはわかりますか」ときくと、大抵「わかります」と返事をされる。末節部に触れるとその振動や関節の動きが近位へ伝わり、触れたことがわかる。末節部をつねって、**痛みが健側と同様にわかれば、神経損傷はない。**

表2 X線撮影、読影の要点

開放骨折を見逃すな
ガラス片はX線画像で写る
骨折かどうか分からなくて、たとえ転位のない骨折があったとしても、「骨折はない」と言っていなければよい

指尖の血流は保たれているか？

一見赤くても不十分である。指動脈が両側とも断裂していても最初はその末梢は赤い。指尖を圧迫したあと解除して、**指腹がふくらみ**赤さがもどらなければ、組織を生かすのに十分な量の血流は保たれていない。

2. 検査

明らかに皮膚だけの切創などを除いて、X線撮影が必要である。X線撮影、読影の要点は表2である。

開放骨折を見逃すな

出血の多い挫創を目のあたりにすれば、それが最大の問題であると思うのも無理はない。手指では皮膚から骨までの距離が近い。**挫創の下には開放骨折がないか**、かなりの注意深さが必要である。挫創だけ処置して、翌日の整形外科外来で骨折が見つかった時点では開放骨折のgolden hourはとくに過ぎている。他の病院のレジデントがしたことなら、まだそのせいにもできる。自分の病院のレジデントの作業なら弁解のしようがない。

ガラス片はX線画像で写る

「ガラス窓に誤って手を突っ込んで切った」、「ガラスが落ちてきて割れて手を切った」などの場合、創内にガラス片がないことを確認すべきである。ガラスはケイ素でできているため、X線画像に明瞭に映る。ガラス片があって容易にその部位がわかれば摘出するが、わからなくてもあることがわかっていれば専門家に相談して摘出してもらえばよい。

余談だが、かなりの確率で受傷機転に関して患者は嘘をつく。「頭にきてガラスをたたき割った」、「酔って持っていたグラスをテーブルにたたきつけた」とはいいにくいものである。あなたにも当てはまるかもしれない。